背包江蘇

JIANGSU IN 里的

THE BACKPACK

江蘇見学
ガイダンス

ハンドブック

◎ ペンとノート /博物館
博物館は一冊の興味深い本です

◎ 腕時計 / 古跡
古跡は時間が育んだプレゼント

◎ カメラ / 自然生態
美しすぎるので

◎ メガネ / 職人の手作り
メガネをかけて手作りと出会い

◎ 小銭 / 美食
安くても、味わい深い

◎ 切符の半券 / 交通
切符の半券に残る旅の思い出

背包江蘇
JIANGSU
THE BACKPACK

江蘇はここにある

序言

もしも、江蘇に来たなら、元々あなたのバックパックの中に江蘇があった事に気付くだろう。見学の旅を始める前に、まずは大きく想像しながら、バックパックの中に江蘇を詰め込んでみよう。

バックパックから、最初にノートを取り出してページを開いてみよう。記録されている大小様々な博物館で出会った発見や逸話、南京博物館にある国家秘蔵の品の素晴らしさ、鎮江香酢の醸成方法など、博物館では常に見たことの無い風物や物語の行間で新しい人物を知り、知識の特別な匂いを嗅ぐことができるだろう。

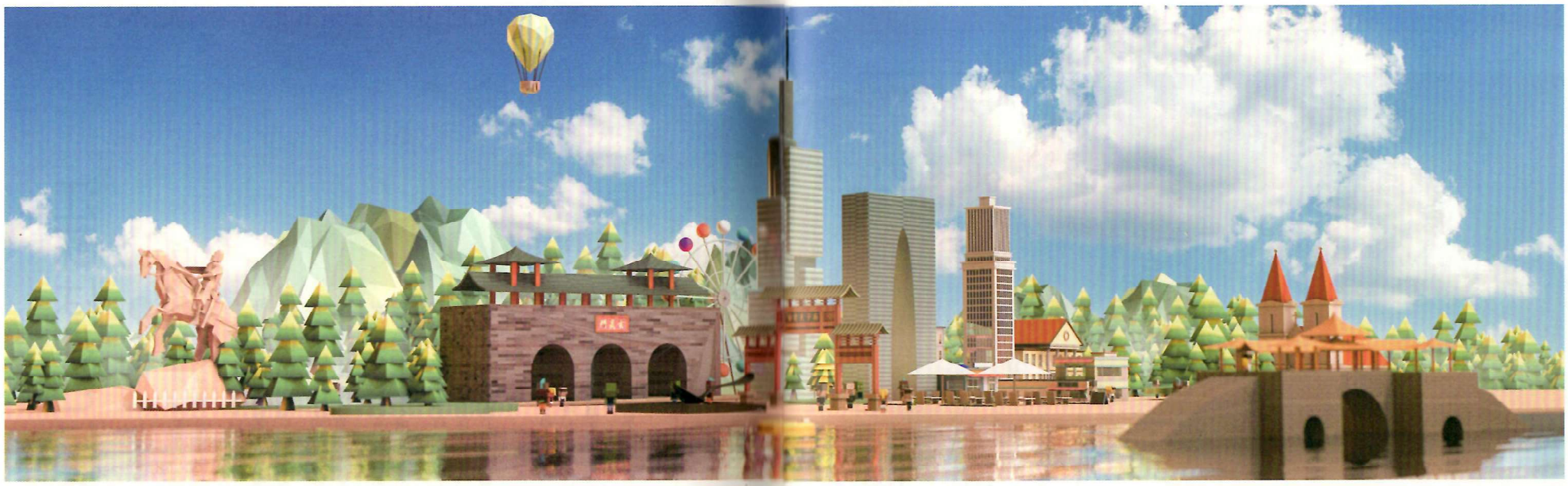
それから、普段付けている腕時計と一緒に時空の旅に出る。2500歳の中国大運河、900歳の周荘水郷、600歳の南京明城壁、それぞれの時空で時計の針は廻り重なり合う。悠久の歳月の中を経てもなお、これらの古跡は常に新しい。

次はお気に入りのカメラを取り出す。本能の赴くまま、驚くほど美しい風景に向けてシャッターを押し続ける。興化千島の黄金色に輝く満開の菜の花、連なる峰と天地、霧に煙る花果山、レンズを通して切り取ったこれら奇跡の瞬間。

バックパックの中には、もしかすると学生時代に使っていた勉強メガネがあるだろうか。もし無かったら、繍女の指先で針を飛ばすように仕上げていく精巧で美しい刺繍がちゃんと見えないかもしれない、そして、泥土から釉薬を使わずに焼成される素晴らしい紫砂壺がどう作られるのかも分からないだろう。匠とその技巧を見るには鑑賞用の「目」が必要だ。

最後にもうカバンをひっくり返すと、舌先の記憶を呼び起こす小銭が出てくるだろう。小籠包、蘇州のお菓子、里芋のせんざい、揚州炒飯、これらの地味で目立たない地元料理の滋味は淡白かつ濃厚で、料理人の知恵と心遣いが、小さいお皿の中に長編の物語を作り上げている。

ここは江蘇、もしあなたが訪れたなら、バックパックに旅で出会った江蘇を詰めれば、その思い出は一生の伴侶となるでしょう。



Part1.
博物館は一冊の興味深い本です
Museum

◎南京博物院／05
◎牛首山文化観光地区／06
◎蘇州博物館／07
◎中国昆曲博物館／08
◎鎮江酢文化博物館／09
◎徐州漢文化景区／10

Part2.
古跡は時間が育んだプレゼント
Historical Sites

◎京杭大運河／12
◎周荘／14
◎明城壁／15
◎項王故里／16
◎無錫三国城／17

Part3.
美しすぎるので
Beautiful Scerery

◎興化千島の菜の花／19
◎国家珍禽自然保護区／20
　&中華シフゾウ園
◎天目湖南山竹海／22
◎花果山／23

Part4.
メガネをかけて手作りと出会い
Handicraft&Craftsman

◎蘇州刺繍／25
◎南京秦淮の飾り灯籠／26
◎南通の藍捺染／27
◎無錫宜興紫砂壺／28
◎揚州木版印刷／29

Part5.
安くても、味わい深い
Delicious Food

◎酸味／31
◎甘味／32
◎苦味／33
◎辛味／34
◎塩味／35

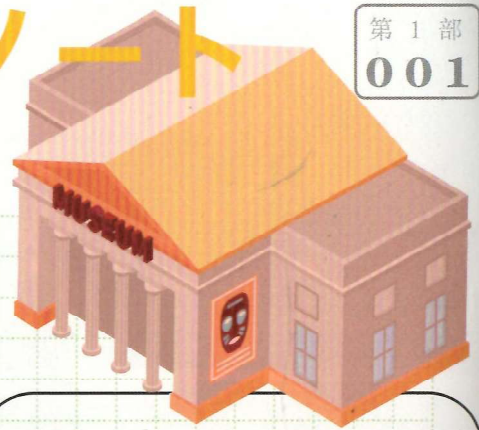
Part6.
切符の半券に残る旅の思い出
Convenient Transportation

◎日本―江蘇往復直行便／37
　インフォメーション
◎トランジット144時間／37
　ビザ免除サービス
◎鉄道サービス／38

ペンとノート

第 1 部
001

Pen & Notebook



博物館は興味深い 1 冊の本、文物が物語を語りだす。

博物館で彼らの物語を記録し、彼らの衣食住、交通手段、喜怒哀楽を感じ、彼らの日常生活を観察し、そして彼らの人生を再体験する。

竹林の七賢と榮啟期の壁画からは、彼らの人生が失意に陥った後も淡然とした生活していた様子や呉王余昧剣からは、刀光剣影な冷兵器時代の戦士の武勇、漢水下の兵馬俑からは、古代の漢王朝の力強い軍隊が四海を制覇する様子を見ることができる……

博物館は一冊の興味深い本です

Museum

01 南京

南京博物院

南京博物院は南京の最も代表的な博物館で、かつ中国で最も古い博物館でもある。館内には各種 42 万件もの収蔵物あり、6 つの分館—歴史館、デジタル館、民国館、芸術館、非遺館、特展館に分かれ、それぞれ違った角度から江南地区の千年の歴史の移り変わりを見ることが出来る。

»見学ガイダンス

歴史館——江蘇地区の古代文明の発展と歴史を全方位から展示。

数字館——歴史とテクノロジーを結合。

民国館——完璧な民国期の街の姿を還元。

芸術館——各派名家の書道、絵画、彫塑。

非遺館——民間芸術品。

特展館——定期的に国内外の蔵品の展示会が行われている。

博物館の宝の探し——乾隆行囲図回転瓶、竹林の七賢と榮啟期の壁画、西漢金獣、銀縷玉衣

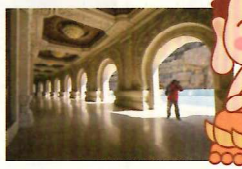
無料（予約が必要）

月曜09：00–12：00（11：00入場終了）
火曜日–日曜日09：00–17：00（16：00入場終了）
月曜日が祝日の場合は終日開放。

南京市玄武区中山東路321号

古代、牛首山は大剎と呼ばれており、中国禅宗の重要な発祥地の 1 つで、仏教界の至高の聖物——釈迦牟尼の頭骨舎利が長い間ここで供養されている。南京の仏教文化にとって非常に重要な役割を担ってきた。そのほかに建築、文化、テクノロジー、芸術、仏教が融合した建築は、モダン建築アートの新境地となっており、一見の価値あり。

02 牛首山文化観光地区



98元

春夏（3月-10月）
09：00-17：30
秋冬（11月-2月）
09：00-17：00

南京市江寧区
寧丹大道18号

»見学ガイダンス

釈迦牟尼の頭骨舎利の礼拝

除夜の鐘

春の牛首山のマラソン大会

TIPS

仏頂宮は牛首山のメインの建物で、細工は精巧を極めており、迫力がある。さらに 100 人以上の中国工芸美術の大家、専門家、学者、非遺伝承人が創作した沢山の精美で最高峰の芸術品が展示されている。また、毎年の礼仏月（約 5 月～ 6 月）、中国の国慶節期間（10 月 1 日～ 7 日）は、釈迦牟尼の頭骨舎利の礼拝が出来る。

03 蘇州

蘇州博物館

蘇州博物館(新館)は、世界的に有名な建築家であるイオ・ミン・ペイ(貝聿銘)によって設計された。古典庭園の味わいを巧みに建築設計に取り込んでいる。大きなガラスを通して、玉石が敷き詰められた池や八角形の東屋、仮山、畳石などの庭園景観を観ることができ、建築の外観とは違った、剛柔一体、調和の美を作り出している。

無料

パスポートで入場する

09：00-17：00（16：00入学中止）
月曜日に閉館する

蘇州市東北街204号

»見学ガイダンス

吉金自作——青銅鋳造体験活動

呉国青銅器館蔵は蘇州博物館の目玉の一つで、現存品の中で最も完璧的状態の呉 王夫差剣や、剣類の中で銘文が最も多く刻まれている呉王余昧剣でもある。

爰伐琴瑟 ——古琴作り体験

古琴は中国で最も古い弾くストリング　で、蘇州古琴はユネスコの無形文化遺産に登録されている。古琴が好きな人は体験イベントで古琴工芸師に習い古琴作りの秘伝を体験することができる。

蘇派盆栽初体験

小幅の写意山水画の臨画

04 中国昆曲博物館

中国昆曲博物館は、元々全晋会館という場所で、清王朝に中国山西商人が商売に使う、会合場所として建てられた。華麗で精巧な建築は中国古建築の美しさを体現しているだけでは無く、科学的な声学原理を応用し優れた音響効果を作り出している。

火曜日-日曜日 09：00-16：30（月曜日に閉館）

蘇州市平江区中張家巷14号

無料

»見学ガイダンス

昆曲公演

毎週日曜日の午後2時から蘇州の専門劇団による公演がある。所要時間は約1時間、チケットは50元。

「粉墨工坊」——隈取り・メイク体験

昆曲では、隈取りとメイクを使い、役柄の身分や情緒を表現する。例えば、喜びを表現する場合には、額に弧状の図柄を施す。

「粉墨工坊」——仿点翠发簪の手作り体験

点翠とは、金銀の裏上に、剪定した鳥の羽を貼り付けた工芸品。昆曲役の飾りは、カスクの上にはめ込まれる。

40元

09：00
16：00

鎮江市丹徒新城定順大道60号

05 鎮江酢文化博物館

酢は、鎮江の代表的な産物で、鎮江人はみんな酢が大好きで、自分たちで酢を作る事も出来る。酢文化博物館は、より直感的に酢の文化を感じられるように作られており、老作房、酢使館、陳列館の三大展示館があり、現代の音光技術に融合させて鎮江の香酢の奥義を人々に展示している。

»見学ガイダンス

老作房

酢職人に伝わる古来の醸造手法で酢作りを体験、自分の顔を貼り付けたオリジナルの香酢をお土産に出来る。

陳列館

100種類以上の酢製品が試飲出来る。厨房はテクノロジーを使ったスマート厨房となっており、ディスプレイで好きな料理を選んで、料理のレシピを学習し、スマート薬箱では、酢を使った治療方法や具体的な使い方・効能を学ぶ事ができる。

06

徐州漢文化景区

徐州

楚漢戦争では、劉邦が帝王の偉業を成し遂げ、大漢王朝を建立、漢文化はここで生まれ、ここで栄えた。現代、漢文化の精髄は徐州漢文化景区に集中しており、「漢代二絶」と言われる、漢墓、漢兵馬俑、漢画像石は、漢文化ファンには見逃せない場所になっている。

»見学ガイダンス

漢画像石体験館で漢朝時代にタイムスリップ

VR、ARテクノロジーを駆使し、漢代楽舞、投壺、比武などの漢朝の娯楽体験が出来る。「漢服の活力ショー」では、古代の織機を使って作られた、漢服の試着体験が出来る。

漢兵馬俑博物館

地下宮殿の深く埋められた兵馬俑には、様々な種類があり、それぞれ表情が違う。秦朝の兵馬俑は剛毅さが目立つが、漢兵馬俑の顔は穏やかで豊かな表情を持っている。これらは当時の市井の様子を反映しており、漢朝の社会生活、葬儀制度、軍制戦陣を覗き見る事が出来る。

90元 | 08:30-17:00 | 徐州市雲竜区東三環兵馬俑路1号

腕時計

第2部 002

Wrist Watch

遺跡は時間が育んだ贈り物。

2500歳以上の京杭大運河は、河の流れが中国を南北に結び、古来より沢山の人々の知恵を支え。

900歳以上の古鎮周荘は最も心地よい水郷の日常生活。

そして600歳以上の明城壁は激烈な戦いと流れた血を伝え残している……また、歴史を再現したテーマパークでは、あなたを不思議で面白い歴史の一幕へと引き込んでいく。

古跡は時間が育んだプレゼント

Historical Sites

01 京杭大運河

京杭大運河は、中国人民が 2500 年もの間、自然と共に作り上げた壮麗な奇観で、江蘇省の蘇州、無錫、揚州、淮安などの都市を貫き、人々は長い時間の中で、河の両岸で生活し、埠頭、古民家、商店などが、大運河と人々が共に作り出した物語となった。

揚州段

揚州段は京杭大運河の最も古い部分で、大運河の最も早期の箇所である“邗溝”はここに建設された。大運河の沿岸には、園林、塩商人古民家、老街など多様な運河文化の魅力が集まっている。

TIPS

揚州の古運河の遊覧船は、毎日午後2時～9時開放、チケットは60元。

»見学ガイダンス

屋形船に乗り揚州の古運河を遊覧、五彩の照明の中、色とりどりの美しい夜を堪能；

何園を観覧、拓本作り、木版印刷を楽しむ。

東関街で揚州の早茶を味わい、揚州饅頭の作り方を学ぶ。

淮安段

淮安は中国の南北の地理的な気候の分岐線で、「南船北馬」は古代淮安の特色である。南からの貨物は水路によって運ばれ、船から上陸して、馬により北に運送されてきた。北からの人は馬でここまで移動し、荷物を下ろし、船に乗り換え、水路で南方へと向かって行った。淮安は運河によって繁栄してきた都市である。

»見学ガイダンス

中国漕運博物館を見物、淮安の古城模型を経由し、当時の淮安城の商業の発展と壮大な繁栄の様子を見ることが出来る。

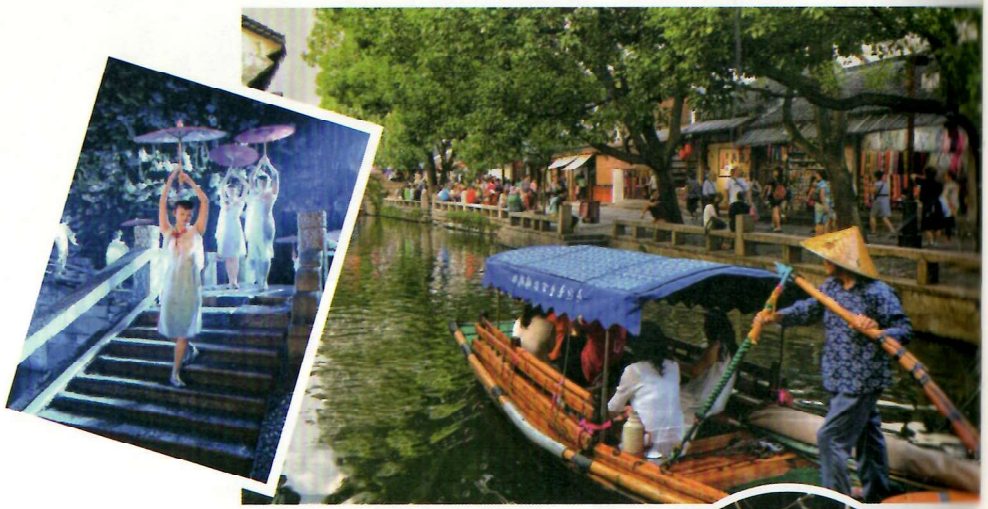
TIPS

淮安の運航の歴史をもっと理解するには、「淮安府署」の観覧がおすすめ。

蘇州 02

周荘

900 歳の周荘水郷は沢山の都市で暮らす人々が思いを寄せる場所で、周荘の歴史は古く、小舟に乗り込み、老水路に通過すれば、明朝の富豪である沈万三の財産についての伝説や談論することを耳にすることが出来るだろう。また周荘は新しくもあり、夜のとばりが降りれば、バーに入って、美味しいお酒を飲み、音楽を楽しみながら、ゆっくりとした水郷の静かさを味わうことも出来る。



》見学ガイダンス

周荘十二坊を見物し、12種類の周荘の民間伝統工芸——土布坊、竹編坊、源豊順酒工房、豆腐坊、木器坊、芸術坊などを体験。十二坊ではもっとも周荘らしい姿を残しており、あなたの見識を大いに広げてくれるだろう。

「四季周荘」水上ショー、ロマンチックなラブストーリーが、四季の移り変わりと共に、周荘の独特な文化を描き出す。

TIPS 公演時間は毎年4月1日～11月20日、普通席は150元/位、VIP席は280元/位。

100元
09:00-16:00
蘇州市周荘鎮全福路43号

明城壁 03

南京

南京明城壁は中国の明朝の建築物で、28 年もの歳月をかけて作られた南京の最も代表的な文化的ランドマークである。600 年以上の歳月を経て、現存している、中国最大規模の城壁である。現在も城壁は高くそびえ立ち、歴史の穏やかさと強さを映し出している。

》見学ガイダンス

「天下第一瓮城」を探して——中華門

中華門は現存する南京の明城壁の中で最も保存状態が良い部分。27個もの隠兵穴があり、3000人以上の兵卒を隠すことが出来るようになっていた。戦争時は敵が責めてくる、敵軍を3つに分割して、各個撃破するように設計されていた。

50元
08:30-21:30
南京市中華門瓮城内

城壁(台城)の真ん中にある隠れ家的な本屋

「台城書房」はただの書店ではなく、読書の楽しみ以外にも、茶道体験や、城壁煉瓦の拓本の制作、毛筆書道体験など、多くのアクティビティを揃えている。

30元
08:30-17:00
南京市玄武区解放門8号

04 宿遷 項王故里

千百年以来、宿遷は項羽の出生地として、項羽の“山を抜き鼎を扛（あ）げ”という恐れを知らぬ精神を人々の心の中に植え付けて来た。項王故里は、漢王朝の様式を真似て建築されており、城楼に登り、甲冑、旗、矛などを見れば、項羽伝奇がここから始まった事を感じられる。

»見学ガイダンス

西楚覇王項羽の故郷を見学、4D 短編映画を見て、“覇王別姫”、“垓下の歌”などの古典物語を復習し、西楚項王の人生の軌跡を知る。

項府では、楚服刺繍や西楚舞踊演出などを鑑賞し、多くの西楚時期の民俗文化と工芸品を見学。これらが更に項王故里景区の文化体験を充実させる。

TIPS

宿遷は中国の有名な酒都で、四方に遠征する項羽は、兵士と共に飲んでいたお酒は洋河の湧き水で作られていたという伝説もある。中国の白酒の生産技術を知りたければ、洋河酒工場へ行ってみよう。

80元

09:00-17:30

宿遷市宿城区黄河南路288号

05 無錫 三国城

無錫三国城では、三国時代の建築物が忠実に再現されている。「火焼赤壁」「草船借箭」「劉備招親」など、「三国演義（映画）」で人々に称賛された場面はここで撮影された。馬場の馬戦公演では、壮大な歴史絵巻を見ることが出来る。

»見学ガイダンス

「三国風雲会——漢学天下」

漢学の専門家より空城計、火焼赤壁、劉備招親などの三国志の講釈を聞く。

漢礼の講師が、漢服着かたや漢代の礼儀を教えてくれる。

「水滸物語会——宋学気風」

講師の授業受け、宋朝時代の「投壺」というゲームをしながら講師の質問を答える。

宋徽宗が作った瘦金字体を学習し、瘦金体を使って、『千字文』を書き取り体験。

TIPS

三国城内で行われる大型の馬戦公演『三英戦呂布』は三国志ファンには見逃せない公演。

90元

07:30-18:00

無錫市浜湖区山水西路太湖之浜

カメラ

第 3 部
003

Camera

旅路の美しい瞬間を捉えるカメラは古くて特殊な存在である。

シャッターを押す瞬間、時間は凝縮され、記憶深く保存されていく。

撮影した写真は様々な事を語る。

最高の１枚を撮るために、菜の花畑に足を踏み入れ、複雑に絡みあった菜の花の中に迷い込む。

そして、シフゾウと対峙した時、あの神秘的な双眼、丹頂鶴の餌付けで、手がむず痒かった事、花果山で、不注意に猿にクッキー取られた事を思い出していく……

美しすぎるので

Beautiful Scenery

泰州 01

興化千島の菜の花

毎年春には、中国各地で菜の花が競って開放されるが、水と菜の花の独特な組み合わせが見られる場所は珍しい。2014 年 4 月、興化島田が国連食糧農業機関で世界の重要農業文化遺産と評定された。大小の島田が静かに水面に横たわり、それぞれ違う形が、迷路?ケーキ?歪んだアルファベット?と、様々な想像を掻き立てる。水上をボートでゆったり漂うと、菜の花に囲まれた、島田の本当の姿がそこにある。

50元

08:30-17:30

泰州市興化市顧郷迎春西路53号

»見学ガイダンス

船に乗り約660万平米もの菜の花畑を鑑賞、小島のような島田に深く入り込み、風乗って漂う菜の花の淡い香りを感じる。

高さ20メートルの観光展望台に登り、彼方を見渡すと、異なる形の島田が千もの小島になり、黄金に輝く満開の菜の花は足元から地平線へと広がっている。

TIPS 興化千島の菜の花は毎年約3、4月に満開（4月はベストシーズン）となり、盛大な菜花節が開かれる。菜の花を鑑賞する共に地元の独特な戯曲を鑑賞や、水車を踏みといった田野の趣ある体験が出来る。

02 塩城

中華シフゾウ園 国家珍禽自然保護区

塩城の浜海湿地は中国最重要の海岸湿地で、生物の多様性が最も豊かな地域である。長い海岸線と広大な海辺の砂地が、湿地帯にロマンティックで優しい雰囲気を作り上げている。このように野外生物と近距離で触れ合える場所は他に少ないので、絶対に足を運ぶべき場所である。

シフゾウ王国

中国人は、シフゾウを「四不像」と呼び、神話の中でシフゾウは姜子牙の乗り物となっていた。中国では絶滅してしまった為、30 年前に国外からシフゾウを持ち込み、野生環境で生育、自然に復帰させることに成功、現在では905 頭の野生のシフゾウが生息している。

»見学ガイダンス

「鹿王」覇権争い。毎年5月末から10月にかけて、雄鹿は雌鹿との交配掛けて争い、最も優秀な遺伝子が残されるため、激しい喧嘩をする。

近距離でシフゾウ観察、シフゾウが大好きなニンジンで餌付け体験。

TIPS 投食対象は、人工生育か半野生のシフゾウに限定されている。完全に野生のシフゾウは騒乱を嫌うため、20メートルほどの距離を保つ必要がある。

55元

08：00-18：30(5月-10月)
08：00-17：30(11月-4月)

塩城市大豊区シフゾウ保護区

丹頂鶴天堂

丹頂鶴の体は全体的に白色を基調とし、翼の下部と頸部が黒、冠の上が赤になっている。白、黒、赤の巧みな組み合わせが、丹頂鶴に神秘性と優雅な雰囲気を与えている。保護区では毎年の厳冬期、全世界の半数もの丹頂鶴がここ集まり越冬する。

TIPS 人工繁殖の丹頂鶴がほとんどは飛ぶ事が出来ず、安全に餌付けが出来る。もし運良く野生の丹頂鶴を見つけることが出来たら、200メートルぐらいの距離を維持して、静かに観賞しよう。

45元　08：30-17：00

塩城市亭湖区331省道

»見学ガイダンス

屋外の野鳥鑑賞専用通路から丹頂鶴を鑑賞しながら、写生体験。

丹頂鶴の飛び立ち上演、餌付け体験。

常州 03

天目湖南山竹海

中国人は、昔から竹を愛し、竹に対して謙虚と気品のイメージを与えてきた。南山竹海の中に散歩すれば、山風が吹き、広大な竹林が風に身を任せ、緑の波のように揺れ動くのを感じながら、大きく深呼吸すれば、最高の気分で新鮮な空気を存分に味わえる。一艘の竹筏で竹の海へ入り込み、延々と続く緑色の新鮮な風景を味わおう。

竹筒飯

90元

5月-9月
08：00 -17：30
10月-4月
08：00-17：00

常州市天目湖観光地南山竹海景区

»見学ガイダンス

竹文化のレッスン——

竹林グルメ：竹筒飯の作り方を学ぶ。

無形文化遺産竹編講師の伝統的な竹刻技術を見学、竹笛の作り方を学ぶ。

パンダ館インタラクション授業

二つのパンダ「華麗」と「星安」の名前の由来や、生活習性、繁殖の特色を学ぶ。

パンダ部屋でパンダのエサ（饅頭）を作り。

パンダの人形に色付け、完成品はお土産に出来る。

04 連雲港

花果山

花果山は高い山ではないが、山上に珍しい形の怪石がごろごろしている、古木が高くそびえ、大小の洞穴が沢山あり、このような特殊で奇異な環境が「西遊記」の作者である呉承恩の想像を掻き立て、長く愛されてきた古典的神話伝記を産み出した。よく観察すれば、花果山に「西遊記」の原型を見つける事が出来る。

TIPS

山中の猿は野生だが、人間慣れしている。しかし、ふざけるのは禁物、餌付けする場合は餌を袋ごと投げれば、猿達は見事な袋さばきで中の餌を取り出していく！

100元

3月1日-11月30日
07：00 -17：00
12月1日-翌年2月28日
08：00-16：00

連雲港市海州区郁林路5号

»見学ガイダンス

美猿王の住処を探して。

玉女峰を登り（花果山の最高峰）、雲山霧海鑑賞、薄霧が軽羅のように漂い、花果山全体が蜃気楼となる。

猿苑で「美猿王」とふれあい。

メガネ

第 4 部
004

Glasses

職人文化とは、過去の市井生活の縮図である。

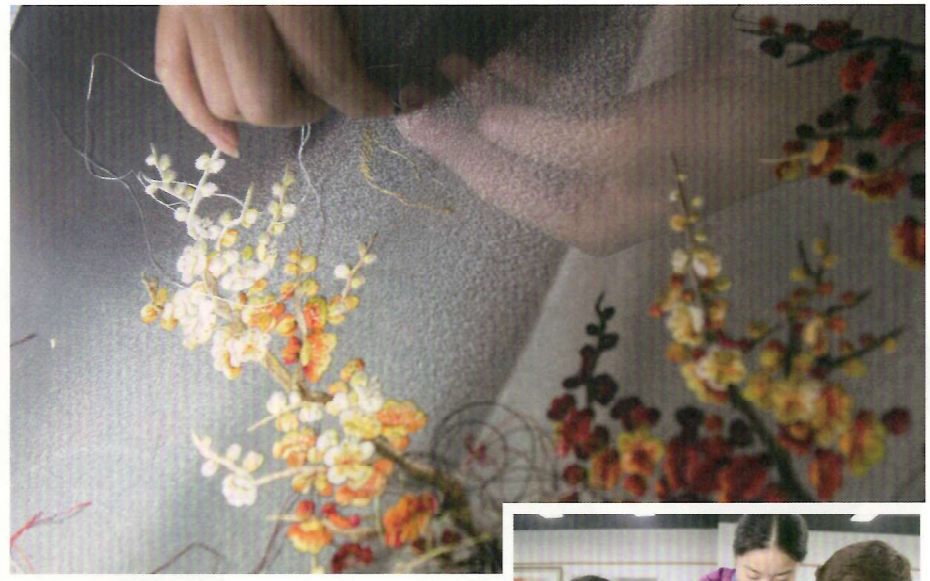
間近で観察し、自分で体験すると、複雑な職人技が温かい日常生活と結びついている事が分かるだろう。

美しいチャイナドレスを作る為に、蘇州のお針子さんが針で絵を作っていく様；よく見る蓮の花の灯籠も、一代また一代と南京人の幼少期を照らし；青と白が織り合わさった捺染は、寒色の中に江南水郷の優しさと穏やかさが見えてくる……

細部を見て美の本質を知り、時間を掛けて深みを味わう、匠の技と心はしっかりとした鑑賞用の眼鏡を掛けて初めて見ることが出来る。

メガネをかけて手作りと出会い

Handicraft&Craftsman



蘇州刺繍

蘇州刺繍は中国でも名高い伝統刺繍で、蘇州の呉江一帯を起源とする。一般的に刺繍仕事をするのは女性で、彼女たちは“繍女”と呼ばれている。繍女の指先では、針が飛び、糸が舞いながら、優美な線と美しい色合いの精巧な刺繍が絹の上に生き生きとした姿を現していく。

歳月が過ぎ、蘇州刺繍のスタイルは徐々に変化と発展を遂げ、単線で描かれていた輪郭は美しく複雑な模様へ、一重織りから二重織りへと、そして、最上級の職人達の上で前は一目するだけで、絵に書かれた絵柄を、絹の上に作り出すほどになっている。

»体験教室

蘇州木涜古鎮では蘇式文化へとタイムスリップ体験が出来る。古鎮の繍女から刺繍を学び、オリジナルの刺繍ハンカチを自作、完成品はお土産に出来る。

刺繍芸術館へ行き、中国トップクラスの蘇州刺繍品を鑑賞。

優秀作品の代表
『猫』、『目』

78元　07:30-17:00

蘇州市呉中区木涜鎮山塘街188号

南京の綿花

南京秦淮の飾り灯籠

南京では昔から毎年お正月に、秦淮飾りの灯籠の祭りという、盛大な地元のお祭りが行われてきた。伝統工芸の秦淮の飾り灯籠は、現在でも蓮花の灯籠やウサギの灯籠などの種類が残っている。人々の好みが時代と共に変化する為、新しい流行に合わせ、毎年の干支の灯籠や鳴光灯などの新しい形が作られている。花灯の製作工程はとても複雑で、手作業で作られるものは、どんどん少なく貴重になってきている。飾り灯籠の職人の器用な両手が華やかな飾り灯籠を作り、代々の南京人に新の年の始まりを照らしてきた。

››体験教室

甘家大院で「手工芸職人」になる

甘家大院は、別名「南京市民俗博物館」,無形文化遺産の後継者が集まり、間近に飾り灯籠造りを観察、花灯作り体験も出来る。

秦淮の飾り灯籠の伝統かたち：
蓮花の灯籠、ウサギの灯籠

TIPS

甘家大院では、飾り灯籠作りの体験以外に、南京の切り紙、南京の綿花、色絵瓢箪、竹彫などの無形文化遺産を知ることができる。

20元　09:00-17:00

南京市秦淮区中山南路南捕庁15号

南通の藍捺染

中国の春秋戦国時代に既に青草色素を使った染め物が作られていた記録がある。元々は汚れや摩擦を防止する為等の実用的な観点から始まり、古風で飾り気の無い絵柄が人気となり、現在では一般生活でも布団やシーツ、衣服、風呂敷、頭巾などの生活用品にも使われている。深い青と純白の組み合わせは、カラフルとは言えないが、江南女子の温かい、穏やかな気質に合っている。その紋様にも吉祥の意味があり——龍鳳呈祥、松鶴延年など、中国の伝統文化と芸術と繋がっている。

››体験教室

捺染の制作過程を観る、花彫、刮防染浆、染色、刮白、日干しの5つの順序を学び、自作体験。自分で図案から染色、日干しまでの工程を体験、自分の藍捺染を制作。

職人と伝統的な織機での伝統的な紡織技芸体験。

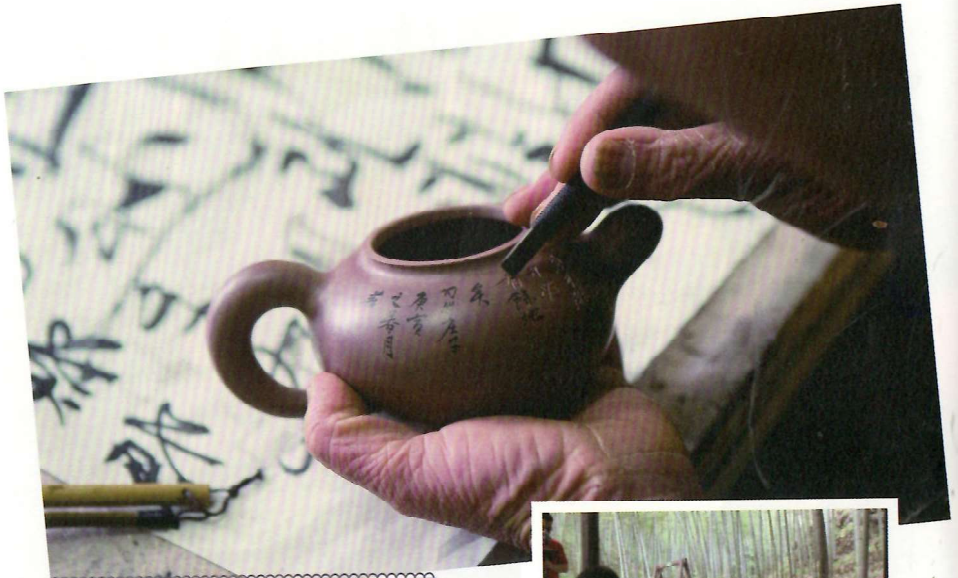
TIPS

南通藍印花布博物館では、様々な藍捺染の工芸品を鑑賞以外、自分で好きな服やカバン等をオーダーメイド注文することも可能。

無料（月曜閉館）

09:00-18:00

南通市崇川区濠東緑苑81号南通藍印花布博物館



無錫宜興紫砂壺

中国人は昔からお茶が大好きで、茶器にも非常こだわっている。紫砂壺はお茶の色味と香りを完全に引きせる為、千数百年もの間、常に高い評価を受けてきた。歴代の文人墨客は茶を味わいながら、紫砂壺の上に詩や絵を書き、芸術性と実用性を融合させた芸術品を作り出してきた。紫砂壺作りには深い熟慮が必要で、職人達は少しでも気に入らないところがあれば、作品を壊し作り直す。職人達はそれぞれ想像力と創造性を存分に発揮し作られていく為、紫砂壺はどれもそれぞれ違った味わいがあり、新しい作品が次々に生まれている。

無錫宜興紫砂壺の代表品：

提璧壷、南瓜壺

»体験教室

専門講師の指導のもと、紫砂壺の知識を学び、紫砂壺の彫刻技巧、篆刻刀の使用方法などを練習しながら、紫砂壺の複雑な制作工程を体験出来る。自分だけのユニークな紫砂壺を作ってみよう。

TIPS

作った紫砂壺を持って帰りたければ、現地で焼いてもらい、お土産にする事もできる。

体験場所：無錫市の宜興湖汶鎮

揚州木版印刷

揚州は中国の木版印刷の発祥地で、中国古代の四大発明の一つ「活字印刷術」は、この基礎の上に生まれたものである。木版印刷は、一定の厚みがあり滑らかな板の上に、原稿を貼り付け、薄い透明な紙を正面の板に貼り付ける事で、文字は逆さまになり、はっきりと字体が印刷される。簡単な工程に見えるが、書道と篆刻技術が融合することで、初めて完璧に完成される難しい技術である。昔から揚州職人は、木版印刷を使い、過ぎ去った歴史を彫り込み、人の目に見れる物としてきた。

体験場所：

揚州木版印刷博物館体験エリア

»体験教室

木版印刷の各過程を体験し、千年もの間、受け継がれて来た中華伝統文化を目の前で見てみよう。

木版印刷の核心である——刻印。

TIPS

木版印刷はとても忍耐力が必要となってくる。すぐに上手にできなくても焦らない事が必要。

小銭

第 5 部
005

Small Change

安くても、味わい深い

Delicious Food

山海の珍味に溢れた宴会ではなく、ありふれた巷にも人を魅了する美食が多く隠れている。

このような目立たないグルメは、濃厚であっさりと料理人の知恵と工夫が現れる。

カバンに小銭しかなくても、南京塩水鴨、蘇式菓子、揚州燙干絲など本物を味わう事が出来る……

これらの料理はお腹満たしてくれるだけではなく、時間が育んだ様々な味、酸味、甘味、苦味、辛味、塩味の平淡ではあるが平凡ではない世間の人々の人情味豊かな味を含んでいる為、ずっとその味が舌先の記憶として残っていく。

世の中の美食には五味と言われる、、酸味、甘味、苦味、辛味、塩味。この五味の中に江蘇の美しい思い出があり、五味の中に日常生活がある。

酸味、この文字を見るだけで、舌先がむず痒くなり、口の中には涎が溢れてくる。酸もっとも食欲を刺激する酸味と聞いて、あなたが最初に思いつくのはなんだろう？

鎮江香酢

江蘇人の「酸味」の記憶の中には、酢が多くの部分を占める。酢が大好きな鎮江人にとって、酢は最もさっぱりした飲み物で、酢造は一部の人にとって必須のスキルとなっている。単純に酢だけでは食卓の「主役」となるのは難しいが、鎮江肴肉、蘇州大閘蟹と出会うことで、大閘蟹の寒性を消し、肴肉の塩っぽさと油っぽさを中和する等、酢はたくさんのグルメの最高なパートナーとなる。

宿遷水晶山楂糕（サンザシゼリー）

新鮮なサンザシは、紅く可愛い色で、酸味が強い。しかし水晶山楂糕は、酸っぱさが苦手な人でも大丈夫。サンザシの種を取った後、ペースト状にしてゼリーにすると、水晶のような淡い美しい黄色になり、ちょうど良い酸味と甘みで、非常に美味。山楂糕を作る習慣は楚漢時代からあり、貢物として覇王項羽に献上されていたと言われ、別名「覇王糕」とも呼ばれている。

甘みは最も簡単に人に幸福感を与えてくれる。人間の甘みに対する敏感さは生まれつきで、大人でも多くの人が子供のように、甘い物対しては抵抗力を失う。あなたを幸せにしてくれる甘みはなんだろう？

蘇式菓子

江蘇省の全体から見ると、蘇式菓子はただの菓子ではなく、江蘇の一種の文化的な記号となっている。この記号を探すことで、蘇州への理解が更に進むだろう。蘇式菓子の工法は非常に巧緻で風味豊か、旬の食材を上手く使って作れる。4月は緑豆餅、5月は薄荷糕、6月は大方糕……と、四季に合わせて変化していく。蘇式菓子作り職人には、根気と細かい心遣いが必要で、これが無いと飽きの来ない、暖かい味わいは作れない。

無錫酱排骨（スペアリブ）

中国にはスペアリブを使った沢山の料理があり、無錫では甘口のスペアリブ料理が作られている。無錫酱排骨の伝統的な作り方は、スペアリブの重量の約１０の１もの砂糖を使い、鍋で煮込むスペアリブは、濃厚な醤油色で、肉はほろほろと、骨からするっと外れるほど柔らかい。この 200 年以上の歴史を持つ、無錫の名物料理は、よそ者にとって少し甘すぎるかもしれないが、地元の人々からは愛され続けている。

苦味は味覚として一般的に好かれるものではないが、他の味よりも印象が深く忘れにくい味である。江蘇人は苦い食べ物があまり好きではないが、毎年の春には様々な苦味を持つ山菜が食卓に欠かせない。

菊葉と卵のスープ

山菜についてもっとも語る資格を持つのは南京人だろう。早くは民国時期、春になると文人達が「山菜狩り」のイベントを企画し、山菜狩りを楽しみながら、山菜に合わせた詩を作り楽しんでいた。最も本格的な菊葉と卵のスープは、アヒルの卵を使ったもので、卵と同じ涼性の菊葉を合わせることで、とても高い解熱効果を持つ。菊葉は噛むと香りの中に苦味があり、簡単に水煮にし、適当な調味料を組み合わせるだけで、すぐに食卓の爽やかな主役となる。

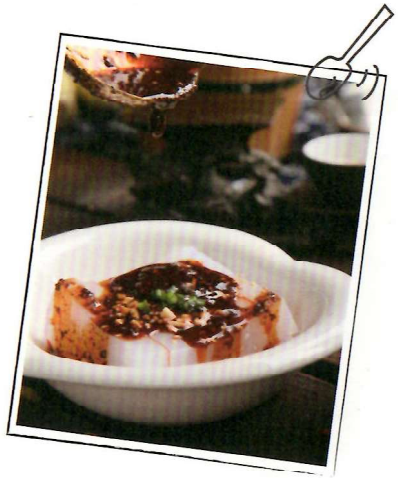
エビとピロチュンの炒め

多数人は渋味と苦味に苦手だからお茶が飲まない。蘇州人が生活の知恵を利用して、この渋味と苦味を充分で転換できる。エビとピロチュンの炒めは、清明時節の前の蘇州西山のピロチュンと太湖の河エビを選び、茶の葉を 80 度の水にエビと一緒に鍋に入れて、エビと茶水が新鮮な食感に転化される。元々渋いピロチュンがエビの生臭いを消し去り、簡単な言葉で形容できない香りが出てきた。細々で味わい、甘味が口の中に広がる。

辛味は、一部の人にとっては欠かせない味の一つで、その刺激が人をやみつきにする。江蘇料理は比較的あっさりした味が多いが、辛味を使うものもある。

盱眙麻辣小龍蝦（ザリガニ）

盱眙のザリガニ料理が有名になるにつれ、中国全国的にザリガニ料理ブームが巻き起こった。真夏に赤い刺激的な色で、強い旨味が弾けるザリガニ料理が食卓に上がると、テーブルを囲む人々は、祭りのように盛り上がる。辛口のスープと新鮮で辛いザリガニの肉が舌先と喉で混じり合い、汗と涙が溢れ出す。辛い物は癖になりやすく、食べ始めると更に止まらなくなり、両手が勝手にうごき、全身の血脈が沸騰するまで食べ続けれるのが醍醐味。



連雲港板浦涼粉

「涼粉」とは、豆類や山芋のデンプンに、適量の水を加え希釈、煮込んだ後に冷やし固めて作られる。真夏日には、街中に涼粉売りの声が響き、街を少し清涼にする。板浦涼粉は緑豆で作られ、光沢があり滑らかで弾性に富んで、ひんやり、さっぱりしている。これには唐辛子ソースが欠かせない、ツルッと口の中に入り、すべすべで、ひんやりと清涼感があふれる。

塩味、五味のトップ。中国の調理法には塩を転化して「鮮」と言われる調理法があり、食材のおいしさを極限まで引き出す。江蘇省の多くの美食には塩味の中に鮮を用いて作られる。

南京塩水鴨

南京人の鴨食の歴史はとても古く、鴨に対してとても思い入れがある。南京では 1 年四季いつでも塩水鴨を作ることができ、その中でもキンモクセイの香り漂う秋が最適の時期で、その為、塩水鴨は別名「桂花鴨」と呼ばれる。塩水鴨はすぐ作って、すぐ食べるのが一番美味しく、鴨肉は柔らかくて、脂身はあるが油っぽくは無い。塩水鴨は昔から常に愛されてきた料理で、来客時のおもてなしには必ず用意され、歓迎の意を表す。

揚州大煮干絲

淮揚菜には豆腐を使ったものが多い、大煮干絲は典型的な豆腐料理で、干絲と細切り鶏肉を使って作られる。真っ白な干絲にエビを加え、各種調味料で味付けすれば、綺麗な色味で、とても美味しい料理に出来上がる。淮揚菜の包丁裁きの技術は大煮干絲から見える、料理人は白干を 18 片に切り、すべて形が揃ってなければならず、更に厚みはマッチ棒を超えてはならない。簡単そうに見える干絲も一代一代積み重なった経験の賜物で、揚州人には淮揚菜が忘れることの出来ない味となっている。

切符の半券

第 6 部
006

Ticket Stub

切符の半券に残る旅の思い出

Convenient Transportation

江蘇省の交通手段はとても便利で、省内に９つもの空港がある。毎週、日本と江蘇省を往復する航空便が多数開設されている。また、江蘇省は鉄道も発達しており、高速鉄道で中国各地を往復するのも非常に便利になっている。

航空サービス

日本－江蘇往復直行便インフォメーション

往復地	航空会社	班次
東京-南京	東方航空	毎週の火、木、日曜日
大阪-南京	東方航空	毎週の火、水、木、金、土曜日
	吉祥航空	毎日
札幌-南京	東方航空	毎週の木、日曜日
	吉祥航空	週に3～4フライトあり、曜日変更の可能性がある。
沖縄-南京	吉祥航空	毎週の木、日曜日 曜日変更の可能性がある
人阪-南通	深セン航空	毎週の火、木、土、日曜日
大阪-無錫	深セン航空	毎日
大阪-揚州/泰州	春秋航空	毎週の月、木、土曜日
人阪-徐州	祥鵬航空	チャーター便のため、フライトは決まってない。

PS：上記に掲載されるフライト情報は、各航空会社から提供され、状況により、毎週変更する可能性がある故、詳しくは各航空会社までお尋ねください。

トランジット144時間ビザ免除サービス

2016 年 1 月 30 日より、上海の各国際港や空港、江蘇省の南京空港、浙江省の杭州空港では、日本を含めの 51 カ国に対して 144 時間（ 6 日間）トランジットビザ免除政策を実施し、長江デルタエリアでのトランジットビザ免除政策との連動を実現している。

144時間トランジットビザ免除の出入国審査の流れーー

144 時間トランジットビザ免除政策が適用される港では、専用の審査ルートを設けられており、申請者は下記の書類を提出が必要。

・本人の有効な身分証明書（例：パスポート）
・144 時間以内にチェックイン済み（日程及び座席確認済み）の第 3 国への乗り継ぎ航空券
・記入済みの外国人入国カード

審査官の質問を回答後、審査に問題がなければ、すぐに取得できる。

鉄道サービス

江蘇省の大半の都市は高速鉄道が開通しており、都市間の移動が非常に迅速、現在の主要高速鉄道駅は下記：

南京	南京駅	南京市玄武区龍蟠路111号	南京南駅	南京市雨花台区玉蘭路98号		
蘇州	蘇州駅	蘇州市姑蘇区蘇駅路27号	蘇州園区	蘇州市工業団地から和西路	高速鉄道駅	蘇州市虎丘区城際路
徐州	徐州東駅	徐州市東郊経済開発区				
揚州	揚州駅	揚州市邗江区文昌西路と駅南路交差点				
無錫	無錫駅	無錫市梁溪区車駅路1号	無錫東駅	無錫市錫山区安鎮先鋒東路		
常州	常州北駅	常州市新北区長江北路8号	常州高鉄駅	常州市関河中路138号		

ご覧いただきありがとうございます！

背包 JIANGSU 江蘇 THE BACKPACK

水韵江苏 Jiangsu: A Wonderful Experience in Beautiful China

江蘇省観光局
www.kousosho.trippiece.com